

情報化社会における 図書館の役割

古瀬 幸広
furuse@kk.iij4u.or.jp
情報学者
国際大学GLOCOM客員教授

2003/7/18

1

「情報化社会」の定義

- 1960年代に誕生
 - マスメディアの発達
 - 電信電話、衛星中継などの登場
- 昨今の「情報化社会」の特徴
 - アナログ情報のデジタル情報処理化
 - インターネットによる双方向化
 - その高速化(ブロードバンド)

2003/7/18

2

特徴1: デジタル情報処理化

☐ 文字のデジタル化

- テレックス→コンピュータ
- 日本語は1978年1月1日より(JIS規格制定)

☐ 音声、静止画、動画のデジタル化

- 1990年代に発達。規格化が進む。
 - ☐ jpeg, mpeg
- WWWの登場(1994年に爆発)
- DVD の登場

2003/7/18

3

特徴2: 双方向化

☐ インターネットの普及

- 個人でも、世界に向けて情報発信可能
 - ☐ WWW
 - ☐ ML、メルマガ

☐ 「出版者」という概念の変化

- マスコミから個人へ
- Googleこそが、出版者
 - ☐ 編集者の不在

2003/7/18

4

特徴3:ブロードバンド化

☐ ADSL, FTTHの普及

- 高速でインターネットに常時接続する時代
 - ☐ ADSL=Asymmetric Digital Subscriber Line
 - ☐ FTTH=Fiber To The Home

☐ 動画情報もデジタル化され、共有される時代

- ブロードバンドの普及で、動画も共有
- CS放送からネットワーク放送へ

☐ 「常時接続」の意味は大きい

2003/7/18

5

デジタル情報発信世界の特徴

☐ 長所

- 国境がない／一次情報源にあたる
 - ☐ グリニッジ天文台やホワイトハウスに直接確かめに行ける
- 商業出版になじまない情報の共有に向く
 - ☐ 検索もできる

☐ 短所

- 固定化されない→引用しづらい→知識として蓄積されない
- 精査するのは自分自身

2003/7/18

6

「知の状況」の現在

- 「情報」はインターネットにちりばめられた
 - 料理法、栽培法、地図...
 - 一次情報(政府発表、統計、企業広報...)
- 「商業出版」は限界
 - 本が売れない
- 「学術出版」はとっくに限界
 - 流通しない

2003/7/18

7

あるべき図書館の役割

- 本を集積するだけなら、倉庫
 - 「分類」し、整理してこそその図書館
 - 利用者の利便性向上、学問発展への寄与
- 情報があふれるネット時代に向けて
 - 新時代においても「図書館」として機能するには、どうすればよいか？
 - Googleにその地位を奪われたままでよいか？

2003/7/18

8

たとえば...

- 活字出版物とデジタル出版物
 - 情報の「固定」に差
- それが「参考文献」として利用されるためには
 - なんらかの形で情報が固定される必要
 - なんらかの形で、つねにアクセスが保証されている必要がある。
- 「図書館」、とくに大学図書館の役割では？

2003/7/18

9

まとめ

- 21世紀の「知の館」であるために
 - 増え続ける書物の情報をデジタル情報技術で管理していくこと
 - 利用者に多様な検索手段、アクセス手段を提供すること
 - 書物のみならず、WWWに掲載されるデジタル出版物をもターゲットとすること
 - ネットワークで各図書館がつながり、効率のよい協業をすること

2003/7/18

10